

花ちゃん・オー君・モリ博士・フツ博士のかくかくド探偵立ててく5

国立市立国立第七小学校

平成29年12月1日 NO.72(472)



コサギ

オー君 「うわあー。まっ^{しろ}白い鳥だね。シラサギかな？」

花ちゃん「まっ^{しろ}白なサギなので、『シラサギ』と^い言ったりするけど、^{ほんとう}本当はシラサギという^{とり}鳥はいないのよ。白いサギはコサギ・チュウサギ・ダイサギの3^{しゅるい}種類がいるのよ。」

オー君 「へえー。すごいね。さすがは鳥博士の花ちゃんだね。ところで、このサギは、
なんというの？」

花ちゃん「このサギはね、コサギというのよ。」

オー君 「どんな^{とくちょう}特徴があるのかな。」

花ちゃん「まず、くちばしは1^{ねんじゅうくろ}年中黒くて、足は^{あし きいろ}黄色なの。」

オー君 「なーるほど。つまり、^{きいろ}黄色のスリッパをはいているみたいだね。」

花ちゃん「^{きいろ}黄色いスリッパ! なーるほど。おもしろい^{ひょうげん}表現ね。」

オー君 「ねえ、^{はな}花ちゃん。サギって^{とり}いう鳥は、3^{しゅるい}種類しかいないの。」

花ちゃん「そんなことないわよ。アオサギという大きなサギもいるでしょ。」

オー君「アオサギって、やっぱり青いのかな。」

花ちゃん「そうね。飛ぶ時に風切り羽の青が目立つのね。でも、ふだんは青というよりも全身が灰色のようだね。」

オー君「ほかにはもういないのかな。」

花ちゃん「白・青の次にはクロサギというのもいるらしいのよ。全身が黒っぽいらしいの。日本の南の地方にいるらしいのよ。」

オー君「へえー。黒いのもいるのか。」

花ちゃん「それから、ムラサキサギというのもいるらしいわ。この鳥は、もっと南の沖縄県の西表島あたりにいるらしいの。(南西諸島が北限)。モンタ博士は、本物を見たことがあると言っていたわ。」

オー君「ふーん。なーるほど。白・青・黒・むらさき・・・もういないよね。」

花ちゃん「それがいるのよ。とてもきれいな『あま色』をしているサギで、アマサギというのよ。」

オー君「あま色って、どんな色なの？」

花ちゃん「あま色とは、漢字で亜麻色と書くの。黄色がかかったうすい茶色ね。」

オー君「へえー。そうなんだ。アマサギって、ほかにどんな特徴があるの。それから、どんなところにいるの？」

花ちゃん「口ばしが黄色いのも特徴ね。それから、ふつうサギの仲間は、水辺に多くいるけど、アマサギは、田んぼや畑などによくいるそうよ。野鳥の会の人の話では、牛や耕作機(畑や田んぼをたがやしたりする機械)のまわりにおいて、飛び出す虫などをねらう習性があると言っていたわ。」

シラサギはなぜあんなに白いの？

真っ白なサギの色はとてもよく目立ってしまい、外敵に簡単に見つかってしまいそうですが、それなりの意味があるそうです。まず、サギは川や田んぼでよく見かけます。食べ物は、小魚やカエル、バッタなどです。サギをよく観察すると、始めは一羽であったものが、次第に数羽、数十羽と集まってくるようです。どうやら、サギには、集団になる性質があるように思えます。実際に、実験した人がいるのですが、白いスーパーの袋に詰め物をして、棒で長い首と足をつけて田んぼにおいておいたそうです。すると、な、な、何と何羽ものサギが集まってきたそうです。このように、シラサギは、白い色に集まるという習慣があることがわかりました。シラサギの白は、仲間を集合させる働きがあるようです。生き物の形や色にはそれなりの意味があることがこれでわかりました。